

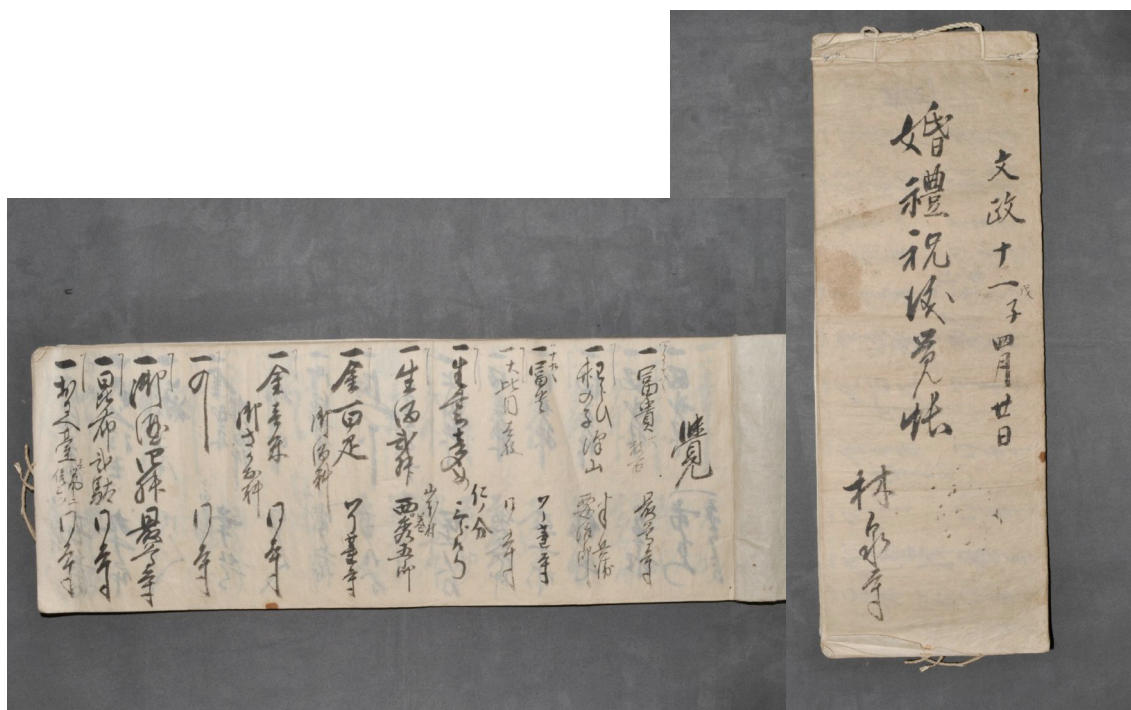
中頸城郡石神村林泉寺文書

林泉寺は真宗・高田本誓寺末で、先祖は甲斐国（山梨県）武田家家臣と伝える石神村庄屋井澤幸助（浄空）が出家して同地に元禄時代（1688～1704）創立し、子孫が法灯を継ぎました（現在は廃寺）。

本願寺からの免状・懇志受取状・過去帳・宗門手形など寺や宗門に関わる文書をはじめ、井澤家の開発にかかる石神古川新田の天和3年検地帳、年貢割付状、同皆済状（貞享2年～明治5年）などが文書群の中核を占めます。圧巻は、林泉寺の娘常野（つねの）に関わる130点の書状です。2度の離婚の後、家出同然で江戸へ上る波瀾に満ちた前半生が彼女自身の書状から窺え、その中で見えてくる地方出身者の江戸での生活や、頸城との間にめぐらされた人脈、さらに常野と南町奉行遠山左衛門尉との接点なども興味深く。

天和3年～大正11年 2,908点

（請求記号：E9806）



婚禮祝儀覚帳 林泉寺 文政11年(1828)4月20日

江戸時代の婚礼に関わる資料。祝儀および結納品目録や婚礼料理の献立が詳細に記録されており、当時の婚礼儀式の様子がうかがえる。